

## 令和3年度 大阪成蹊女子高等学校 学校評価

### 1 めざす学校像

- ① 本学園の建学の精神である「桃李不言下自成蹊」、「忠恕」の精神に基づき、「思いやりがあり、誠を尽くし人の立場にたって考え行動できる人材」、また社会に求められる「自立し、品格ある女性」を育成する学校 **(女子教育の推進)**
- ② 女子に特化したキャリア教育を教育の柱として、女性として自主的に生きる力を育み、人間力を高めるために必要な資質や能力を育てる学校 **(キャリア教育の推進と人間力の育成)**
- ③ グローバル社会に求められる多文化共生のマインドと必要な能力を育むとともに、確かな学力と「使える英語力」の向上を図る学校 **(国際教育・英語教育の推進)**
- ④ 普通科の「特進コース」、「幼児教育コース」、「スポーツコース」、「総合キャリアコース」「音楽コース」と美術科の「アート・イラスト・アニメーションコース」に加えて、今年度開設の「看護医療進学コース」を合わせた特色ある7コースの教育内容を高め、生徒のニーズに応える生徒の夢を実現できる学校 **(多様なコースで夢を実現)**
- ⑤ 共生の観点を基本として、他者を敬い、自己を肯定できる豊かな人権感覚を育むとともに、いじめのない安全で安心な学校 **(人権教育の推進、安全で安心な学校)**

### 2 中期的目標

#### 1.学力の向上と学校教育力の強化

- ① コースの学びの充実と「主体的・対話的で深い学び」の実践により【学ぶ意欲が伸びる学校】にする。  
・各コースの特性に応じた社会のニーズに応える新たな教育力の向上をめざす。また、日々の教科指導において「本時の目標と振り返り」に視点を置きながら、「主体的・対話的で深い学び」を取り入れ、生徒の学びの質的な向上に努める。また、指導法の改善により「わかる喜びが散りばめられた授業」の実践に努める。
- ② グローバルなキャリア教育の推進とユネスコ活動  
・グローバル教育の観点を取り入れた「グローバルなキャリア教育」を推進する。コロナ禍ではあるが、これまでの取組みであった海外研修などを、オンラインを活用するなど様式を変えながらも継続的に学ぶ機会として設定していく。また、生徒のグローバルな活動として、ユネスコスクール活動の更なる充実をめざす。
- ③ 使える英語教育の推進  
・4技能を中心に、英語教育の充実を学園の教育方針と合わせて強化する。とりわけ、リスニング・スピーキングを重視する「使える英語」の育成を進める。
- ④ 各種検定の合格をめざす実学教育の充実  
・3カ年の教育目標の達成に向けた各教科の取り組みを計画的に進め、生徒の達成感を育む漢字検定・GTEC(英語検定)・秘書検定等の合格率や到達度の成果を高める。
- ⑤ ICT機器の活用  
・全教室に設置されているテレビモニターやICT機器を活用した学習効果の高い授業を工夫する。今年度入学生より全員が購入した iPad の活用を中心に、コロナ禍でのオンライン学習や自学自習に取り組んでいく。

#### 2.円滑な学校運営と安全安心な学校づくり

- ① 募集広報活動の充実  
中学生の減少傾向や私立高校の環境の変化に関わらず、常に生徒が集まる魅力的な学校をめざす。学校力の向上と募集広報活動の強化を両輪とした学校経営を推進する。
- ② 内部進学を増大と進路指導の充実  
生徒の多様な進路選択を尊重しつつ、学園全体の発展を見据えて、併設大学・短大への内部進学者の確保に全力を挙げて取り組む。すでに 50%を超えている内部進学率は 60%を目標にする。
- ③ 生活指導の強化と自尊感情の醸成  
重要な教育方針として、全教職員の共通理解のもと全教職員によるバラツキのない生活指導(服装指導・頭髪指導等を含む)の徹底を図る。
- ④ いじめ防止と建学の精神を踏まえた教育の推進  
本校の「学校いじめ防止基本方針」を踏まえ、本校でのいじめ対策について全教職員で共通理解を図り、早期対応によりいじめのない学校をめざす。また、建学の精神に基づき、人間力教育を推進する。
- ⑤ 評価育成制度によるPDCAサイクルの推進と、FD研修の充実  
校長の進める学校経営に個々の教職員が主体的に参画する。評価育成制度によるPDCAサイクルを通して、個々の教職員の資質と学校力の向上を図る。特に、FD研修の充実により、教職員の能力・指導力の向上を図る。

### 【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

#### 学校評価アンケートの結果と分析

○生徒・保護者の学校評価アンケート結果 [令和4年1月実施分](抜粋)

・令和3年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、変更を余儀なくされることも多く、アンケート実施時期もやや遅くなるとともに、結果は例年に比べてやや低くなることは致し方ない状況ではあったが、各コース概ね良好な結果だったと言える。

#### 【保護者の評価(肯定率)】

・「入学してよかった」という保護者の評価は、コロナ禍であっても昨年度と同様に 87%を維持している。また、学園内に併設大学・短大があるというメリットへの保護者の評価は、それ以上に高い(肯定率 91%)。

・この学校には、他校にない良い特色があるという回答は、コロナ禍であっても昨年度とほぼ変わらない 91%、伝統ある女子校として、また 2 学科7コースの総合タイプの私立女子高校としての評価は高い。

・生徒が学校生活を楽しく、充実していると感じているという回答は、コロナ禍であっても昨年度とほぼ変わらない 85%であるが、学校行事が充実するとともに、活動に教育的な姿勢が感じられるという意見は 73%(昨年度:75%)、一方、「思わない」という意見は 4%(昨年度:3%)であった。コロナ禍で学校行事そのものが実施できなかったことの影響は否めない。(令和3年度:体育祭実施/文化祭実施できず/修学旅行国内変更で実施 令和2年度:体育祭実施できず/文化祭実施/修学旅行国内変更でも実施できず)

・学びについては、補習や講習は総合的に整備されているという回答は、微増ではあるが 81%から 83%と年々向上している。また、全科目にわたり、学習指導は充実しているという回答も 72%から 73%に微増している。しかし、学習指導の項目については、今後も課題として捉えながら取り組んでいく。

・学校はグローバル時代に対応する国際理解教育を進めているという回答は 77%から 72%と減少傾向にある。コロナ禍の影響で海外修学旅行を含む海外での取り組みができなかったことが主な要因ではあるが、ベルリッツや台湾やオーストラリアの高校とのオンライン研修等の取り組みは評価されていると言える。

・「入学してよかった」というコース別満足度は、美術科(94%)→音楽コース(90%)→幼児教育コース(89%)→スポーツコース(87%)→看護医療進学コース(84%)→特進コース(82%)→総合キャリアコース(81%)の順となり、いずれも高い評価を得ている。

・「学校からの通信や文書などで学校様子が家庭によく伝わっている」の項目に対する評価は、これまで2ポイント台(満点4ポイント)であったが、昨年度初めて 3.10、今年度が 3.15 ポイントとなった。コロナ禍において丁寧な発信に努めたことが評価されポイントが上昇している。

- ・特進コースでは、「他校にはない良い特色がある」が92%であり、日常的にタブレットを使った学習や活動歴をICTで扱っているため、「ICTを活用した取り組み」は85%の肯定率に上昇している。学習に関する項目の肯定率が飛躍的に向上することが、引き続き課題と言える。
- ・幼児教育コースでは、「併設大学・短大があり、総合学園の長所が生かされている」が98%、「他校にない良い特色がある」が92%と昨年度と同様に高い。本校幼児教育コースから併設短大の幼児教育学科、併設大学の教育学部への内部進学への優位性が高く評価されている。昨年度、肯定的な回答が最も低い質問だった「ICTを活用した取り組みを行っている」という項目(60%)は、コロナ禍での取り組みもあり88%と肯定率が大きく上昇した。
- ・総合キャリアコースでも、「併設大学・短大があり、総合学園の長所が生かされている」が89%と高い肯定率を得ている。一方で、学習に関する項目の肯定率が飛躍的に向上することが、引き続き課題と言える。
- ・スポーツコースでは、全体的に保護者の回答には肯定的な傾向が強い。特に、「他校にない良い特色がある」92%、「女子校として挨拶の励行、品格を育てる指導をしている」は88%となるなど、全ての項目で肯定的な意見が70%以上になっている。
- ・音楽コースでは、「他校にない良い特色がある」は97%、「この学校に入学させて良かった」は90%など、開設2年目のコースに高い評価を得ている。
- ・今年度開設した看護医療進学コースでは、「他校にない良い特色がある」は88%、「この学校に入学させて良かった」は84%など、コースの満足度に高い評価を得ている。
- ・美術科では、「他校にない良い特色がある」が96%、「この学校に入学してよかった」が94%と高い評価である。府内の私立高校で唯一の専門学科として「美術科」を設置する本校の特色が、継続して保護者に理解されていることがわかる。

#### 【生徒の評価(肯定率)】

- ・1年を通じてコロナ禍の影響を受け、昨年度との比較ができて経年比較が難しい状況であった。
- ・生徒の高い評価は、「学校生活が充実している」が昨年度とほぼ変わらず86%、「所属しているコースに満足している」が88%と微増している。
- ・「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」のポイント(満点4ポイント)は、0.16ポイント上昇し3.09ポイント、「学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」も0.19ポイント上昇し3.09ポイントとなった。
- ・一方、目立って低い評価項目は、「生徒会活動に積極的に参加している」が全体平均で51%で昨年度より微増しているが、コロナ禍で学校行事に予定通り取り組めないことに起因していると考えられる。今後の回復が課題と言える。

#### ○アンケート結果の分析

- ・生徒及び保護者とも、7コースの教育内容及び本校の特色をよく理解していただき、学びの満足度も高い。コロナ禍であっても肯定率が增加する項目もある。学校の努力が一定の成果につながっていると判断できる。
- ・「学校からの通信や文書などで、学校の様子を家庭に伝えること」の保護者肯定率が82%(前年度80%に上昇)を維持し、コロナ禍でも保護者と学校との連携がうまく行われていると言える。
- ・今後のコロナ禍の状況を踏まえながら、回復と進捗が検討課題と言える。

#### 学校評価委員会からの意見

▽令和3年度学校評議員 《高木委員のみ継続/他の4名は令和3年度・令和4年度任期の委員》

高木 恒夫	公益社団法人日本教育会大阪府支部事務局次長 (元 高槻市立第四中学校長)	山口 智子	(公財)大阪観光局 教育旅行(学校交流)コーディネーター・留学生支援担当 元 大阪府立三国丘高等学校校長
元賀 圓治	認可地縁団体相川町会会長、 相川中振興町会会長、 大阪成蹊学園評議員	安達 宏昭	大阪大学大学院薬学研究科特任教授 ㈱創晶代表取締役、(福)あおば福祉会理事、柴又運輸㈱顧問、 ㈱dotAqua 代表取締役、㈱A・P・M 取締役、㈱HOIST 取締役、 (一社)レジリエンスジャパン推進協議会参与、 (一社)日本 MA-T 工業会専務理事兼事務局長
宮田 憲一	令和3年度 PTA 会長		

**第1回 令和3年7月6日** 会場:大阪成蹊女子高等学校 第2会議室 学校評議員5名出席(欠席ナシ)

#### 【学校長から、令和2年度学校評価アンケートならびに令和3年度の教育目標について説明】

- ① 委員からのQ: 前年度と比較して、学校評価アンケートにおいて特進コースだけが低い評価に推移していることが気になる。  
A: 令和元年度入学生(現2年生)が極端に少なく、幅広い人数がいるコースではそれなりの評価が出るのだが、偏りが生じたのではないかとと思う。  
—今年度のアンケートで好転していれば問題ないと思う。
- ② 委員の意見、提言
  - ・何より府全体の中学校卒業生が大幅減少の中、510名の入学(大阪府下女子校第1位)の実績が素晴らしい。
  - ・コロナ禍において難しいこともあるが、新しい形の体験を育んでほしいと考えるとともに、きめ細かくいろいろな取り組みをされていることが見てとれる。
  - ・アクティブラーニングに関しては、先進的な取り組みをしている学校への研修など、先生方に経験してもらうことも大切である。  
—アクティブラーニングの肝は、「頭がアクティブになること」と捉えているので、これまで通りが通用しにくい今こそチャンスになるので学んだり、検討する機会を増やしたい。

**第2回 令和4年3月9日** 会場:大阪成蹊女子高等学校 第2会議室 学校評議員4名出席(宮田憲一評議員は欠席)

#### 【学校長から、コロナ禍の状況における現状報告等に続けて令和3年度学校評価アンケートならびに令和3年度事業報告・令和4年度事業計画について説明】

\*夏休み明け、大阪府の感染者数の爆発的増加を受け文化祭を中止 \*国内旅行ではあったが修学旅行は実施 \*3学期の第6波の影響は大きく、学級閉鎖や臨時休校を余儀なくされた \*授業アンケートを年1回実施から年2回実施(1学期&2学期)に変更 \*2学期にオンライン学習日を設定し、3学期の休校期間には活用

#### ○学校評価アンケートの分析について

- ・生徒の質問項目の⑩と⑭は同じような質問なので少し改善された方がよい。 — 了承
- ・コロナ禍でも先生方の対応や取り組みが評価されていることで、先生方が本当によくやってくださっていることがわかる。
- ・コロナ禍が明けた時に、どのようにするのか・どうやりたいのかを考える必要がある。是非、明るい未来を知らせる工夫をしてほしい。
- ・「そう思う」の回答が50%を占める項目がコースにより偏りがあるように思う。「そう思う」「ややそう思う」を肯定率として評価しつつも、次年度からは「そう思うの評価を50%以上にする」を達成することを目標にしていくのも良いと思う。

#### ○令和3年度事業報告ならびに令和4年度事業計画について

- ・大阪成蹊女子高等学校の人間力の育成は素晴らしいと思う。
- ・「できないことを認める」前に、「できないことに気づくこと」が一番初めにあると考えるので、先生方には「できない自分を気づかせる教育(声掛けなど)」を実践してほしい。
- ・先生方にうまく拍車をかけるように「見える化」を行うことも必要だと考える。
- ・将来を示す取り組みの発信をお願いしたい。  
—将来的には、普通科と美術科のコラボ企画として絵本を作成し、読み聞かせなどを通して地域連携を含めた本校の取り組みにしたいと思っていたが、とりあえず第1号として美術科の生徒が作成した作品を製本化(500部)することができた。
- ・ユネスコスクールの取り組みは続いているのか。 — 昨年度からオンライン交流になったが、今年度もクロアチアの学校と交流して共同作品を作成した。
- ・この事業報告や事業計画も教職員に示す機会を設けることで、ベクトルが同じ方向に向くと思う。

3 今年度の取組内容及び自己評価

目標	今年度の教育目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習指導の充実と学力向上	①アクティブ・ラーニング(AL)を取り入れた学力向上すべての科目でALを導入	1.グループ活動での活用:グループ発表、討議等、探求活動などでALを適切な授業場面で実施する。 2.課題解決学習 :一方的な講義形態に終わらず、主体的に生徒同士が協力しながら課題・問題を解決する学習方法を積極的に取り入れる。	AL実施授業数	・引き続き、コロナ禍でグループワーク等の取組みが難しい状況となった。 ・課題解決学習を積極的に取り入れる姿勢は変えることなく取り組むよう努めた。
	②コロナ禍であっても学びの充実	臨時休校や様々なコロナ禍での影響を受けると思うが、学びを止めることなく、オンラインを取り入れることも含め、「わかる喜びが散りばめられた授業」に向けて努める。	1. 学校評価アンケート「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」の肯定率 2. 授業アンケート ①「授業に興味・関心を持つことができた」②「授業を受けて知識や技能が身についた」平均値3.0以上	1. 肯定率:82%(昨年度 74%) / 評価平均:3.09(昨年度 2.93) については、嬉しい結果と言えるが、更なる向上をめざしていく。 2. ①平均 3.19(昨年度:3.17) ②平均 3.24(昨年度:3.18) 加えて、③「授業内容について必要な予習・復習」ができてきている」の平均値も3.08(昨年度:3.00)と上昇した。家庭学習の習慣が定着し始めていると言える。更なる向上をめざす。
	③評価育成制度を通じた教科指導の充実と、公開授業の実施	1.評価育成での教科指導力の向上 日常的な教科指導の振り返りと授業点検を進め、生徒による授業アンケートや評価育成制度でのPDCAサイクルを活用しながら、教科指導力の向上をめざす。 2.公開授業の実施 コロナ禍で変則的な学校運営となるが、公開授業を実施する。	1.評価育成制度の実施状況 授業アンケートの活用の有無	1.全教員に評価育成制度を実施できた。 ・年度末の開示面談で個々の教員に対して、授業評価アンケート結果を基に指導を実施。 ・今年度より年2回(7月と12月)実施にしたことで授業改善に反映し易くなった。 2. コロナ禍に配慮し、校内のみでの公開授業週間となったが、実施することができた。
	④各種検定の合格をめざす実学教育の充実	・検定合格や資格取得に対応する教科の取組みを、コロナ禍ではあるが計画的に進める。	各種検定の合格率	・漢字検定は昨年度と実施回数が異なるため単純比較はできないが、全体的に合格率は下がってしまった。ただ、2級の合格率は過去5年間で最も高かった(22.7%)。 ・全員受験の秘書検定では3級合格率は過去最高の68.3%(昨年63.0%)であった。 ・他のGTEC、世界遺産検定、家庭科検定等も対策に取組み、成果をあげた。
2 全教職員が一体となった学校運営	① 生徒募集力の強化とコースの特色の鮮明化	1.コロナ禍ではあるが、募集広報企画室の活動に対する全教職員の協力体制を強化し、オープンスクール(OS)は全教職員体制で臨む。  2.コース毎に生徒ニーズと学校教育方針を反映した特色づくりを更に強化する。 <b>【普通科】</b> <b>ア.総合キャリアコース</b> ・併設大学・短大の学部学科との接続を鮮明化し、特色を中学生に伝える広報を充実する。 <b>イ.幼児教育コース</b> ・コロナ禍で難しい実習等を何とか実施できるよう工夫する。併設大学・短大の教育学部、幼児教育学科との接続強化を維持する。 <b>ウ.スポーツコース</b> ・併設大学経営学部やびわこ成蹊スポーツ大学との密接な接続を維持し、スポーツ系の学びを充実させる。 <b>エ.特進コース</b> ・生徒の自己研鑽力の育成を図り、自ら難関大学に進学できる学力伸長の取組みを強化する。 <b>オ.音楽コース</b> ・2年次からの専攻実技を含め大阪音楽大学との連携を実践しながら、3年次の検討を進め、音楽に興味をもつ生徒を30名以上集める。 <b>カ.看護医療進学コース(令和3年度開設)</b> ・新設コースでありながら、これまでも看護栄養レーンなどの取組みがあり、併設大学の看護学部創設との連携も伝えながら、40名以上を集める。  <b>【美術科 アート・イラスト・アニメーションコース】</b> ・学内外の各種コンペでの上位入賞を今後も維持し、その成果を広く発信し、本学科の充実をアピールする。併設大学芸術学部への内部進学を更に強化する。	1.志願者数  2.各コース別志願者数と入学者数	1.コロナ禍で開催も危ぶまれたが、様々な工夫をすることで例年なみの回数でOSを開催することができた。 2.各コースの特色の鮮明化に努め、府立高校の募集定員が昨年度より増加する現状においても、505名が入学した。  <b>各学科・コース別の志願者・入学者</b> 普通科 ア. 総合キャリアコース 志願者 299名 入学者 143名 イ. 幼児教育コース 志願者 110名 入学者 56名 ウ. スポーツコース 志願者 66名 入学者 44名 エ. 特進コース 志願者 71名 入学者 32名 オ. 音楽コース 志願者 62名 入学者 44名 カ. 看護医療進学コース 志願者 62名 入学者 40名 美術科 アート・イラスト・アニメーションコース 志願者 259名 入学者 146名  合計 志願者 929名 入学者 505名 (府内の私立女子高校で1番の入学者数)

2 全教職員が一体となった学校運営	② 高大の教員間連携を強化し、内部進学率の拡大と進路指導を充実	1.内部進学率の拡大 併設大学・短大への内部進学者の拡大に向けて、3年生担任団と進路指導部との連携強化を更に進め、内部進学率60%の目標達成に向けて最大の努力を行う。 2.学園内高大連携の拡大 併設大学・短大との学園内高大連携を更に強化し、連携授業の充実に努める。連携授業100以上をめざす。 3.併設高校生対象オープンキャンパス(OC)の充実 併設高校2年生・3年生対象OCの充実に努める。 4.学習活動の継続 内部進学が内定後、進学後に必要な学力向上に向けた学習を継続させるための入学前教育を実践する。	1.内部進学率 2.学園内高大連携授業の実施数 3.併設校対象OCの状況	1.今年度の内部進学率は全体として53.8%、前年(54.9%)より1.1%減であった。 内訳：併設大阪成蹊大学129名、びわこ成蹊スポーツ大学4名、大阪成蹊短期大学95名 2.コロナ禍での感染防止対策による中止などにより、実施された連携授業は限られ、また実施しても制限のある内容となった。 3.コロナ禍でこれまで通りの取組みとはいかなかったが、OCを実施することができた。 4.入学前教育を併設大学・短期大学と連携して実施した。
3 生活指導の充実	建学の精神を踏まえた女子教育の充実と、学園のブランド力向上運動と連携した生徒指導の充実	1.女子教育の充実 建学の精神を踏まえた伝統ある本校の女子教育に必要な生活指導を徹底する。頭髪指導・服装指導など生活指導に関する教員向け指針を全教職員で共通理解し、全教職員による生活指導を徹底する。 2.学園のブランド力向上運動 学園の運動と連携して、日々の挨拶運動等を更に進める。生徒会への働きかけも強める。 3.正しいSNSの使い方 近年のスマホ普及に伴い、生徒のSNSの正しい利用に向けて生徒への指導力を強化する。教職員の研修を図り、ネット上でのトラブルを最小限に減らす取組みを推進する。	1.学校評議員の評価、生徒指導件数の変化 2.朝の挨拶運動の状況 3.スマホ関連の懲戒件数	1.学校評議員会で委員からの本校生徒についての評価は今年度も高い。本校の人間力育成が評価されている。 2.挨拶運動では、毎朝、生活指導部と担任を持たない教員が登校指導を実施し、一定の効果があつた。月毎の頭髪・服装指導も実施した。 3.入学時での生徒・保護者向けSNS研修をはじめとして、生徒や教員への研修も行った。
4 いじめ防止等の対策	いじめ防止の取組みと、建学の精神に沿った豊かな人権感覚の育成	1.いじめ防止対策 学校制定の「学校いじめ防止基本方針」を全教職員が十分に理解し、建学の精神を踏まえつつ、生徒が互いに他者を理解し、尊重し合える豊かな人権感覚をあらゆる教育活動の中で育む。 2.人権ホームルーム 「年間計画」に基づき生徒いじめアンケートを実施し、いじめ等の未然防止に努め、安全で安心な学校づくりをめざす。また、いじめに対応するガイドラインを遵守し、早期対応と管理職報告を密に行うなど、適切な対応を行う。	1.いじめ件数 2.ホームルームでの人権学習実施有無	1.今年度のいじめ件数はゼロ。 年2回実施している「いじめ防止アンケート」を踏まえた早期対応の成果である。 コロナ禍ならではの質問項目も追加してアンケートを実施した。 2.全学年で年2回の計画どおりに実施した。 事前の教員研修会も効果的である。
5 生徒会活動・部活動の活性化	生徒の自主性を育むことをねらいとして、生徒会活動および部活動を活性化	1.生徒会活動の活性化 生徒会としての日常的な活動を積極的にアピールし、文化祭、体育祭、予餞会の各企画委員の活動支援体制の拡充を図る。学年を超えた生徒同士の交流を深め、人間関係を円滑に構築できる力を育てる。 2.部活動の活性化 新入生に運動部、文化部への加入を積極的に推奨し、部活動・同好会の加入率を高め、部活動の活性化を図る。 3.生徒の達成感を高める活動の推奨 運動部以外の文化系部活のコンテストや発表会等の成績発表を充実させ、ボランティア活動を含めて、積極的に生徒の達成感・成就感を育み、生徒の内面を鍛える取組みを進める。	1.生徒会活動参加者数の増減 2.部活動加入率 3.コンテスト等の表彰歴、各種ボランティア活動状況	・すべての項目において、コロナ禍の影響は大きく、活動制限を受けたり、中止せざるを得ないものも多く、今年度も評価することが難しい1年であった。 ・体育祭と予餞会は制限をかけながらも実施することができた。文化祭は、夏休み明けの大阪府の感染者数の爆発的増加を受け中止となった。 ・部活動加入率も例年並みではあつたが、活躍の場が引き続き激減していることが残念である。

#### 4 今後の改善方策

<p><b>1 学習指導の更なる充実</b> 生徒が学校生活で一番時間を費やすのは「授業」であり、授業は生徒と教員が信頼関係を築く入り口である。高校で学ぶ内容を生活で役立つことに直結して考えると、役立たないという結論に結び付ける生徒も多くいるが、役立つかどうかはいつかわかることであり、何事にも懸命に取り組むことを生徒には伝え、教員は「わかる喜びが散りばめられた授業」に向けて、自己研鑽とチームワークの両輪で取り組む。</p> <p><b>2 グローバル教育・英語教育の更なる充実</b> これまで積み重ねてきた海外修学旅行等の行事は、コロナ禍が収束すれば新たに進めていく。併せて、オンラインの活用で海外との連携を絶やさないように取り組んでいく。 また、正式なユネスコスクールへの加盟により、SDGsの取組みを教育課程の中に一層発展させる必要がある。生徒と同年代の活動家や中学生などとの交流の場を設定していく。</p> <p><b>3 コースの完成年度に向けた検討と広報活動など</b> 本校の最大の特徴である多様なコース配置と、特色あるコースでの教育活動を更に充実させ、中学生へのアピールを図る。完成年度まで検討を続け、音楽コースの生徒への学習保障を図り、大阪音楽大学との連携を円滑に進める。今年度開設した看護医療進学コースについても同様で、本学のコース充実に努める。 令和4年度も全教職員を対象とした募集対策の研修を強化し、学校としての募集力を高め、500名の生徒募集に向けて最善を尽くす。</p>
---